



グループ通信

発行/ふれディアグループ本部 編集部

〒351-0022 埼玉県朝霞市東弁財1-3-4

朝霞台駅前ビル8F

全国相談窓口  0120-116-017



こんにちは、ふれディア通信編集部です。外の景色もだんだん秋らしくなってきました。秋は「スポーツの秋」「食欲の秋」「読書の秋」などと言われますね。今日はその中の「読書の秋」に通じるお話をしたいと思います。さて、皆さんは「ミステリードラマ」を見ることはあるでしょうか？時々、2時間くらいの尺で放送されていたりしますよね。クライマックスは犯人が断崖絶壁に追い詰められて自白したり、刑事や探偵が真相を解明したりするのがお決まりです。ところで、そもそもミステリーとは何なのでしょう？辞書によると、ミステリー (mystery) とは「神秘的なこと」「不可思議」「謎」「怪奇」「推理小説」…などとあります。これはギリシャ語の「ニューミステリオン」という言葉に由来していて、もともとは秘密の儀式を指す言葉だったそうです。時がたち1841年、世界で初めての推理小説が誕生します。アメリカ人のエドガー・アラン・ポーが作品を発表し、それが今のミステリーの始まりといわれています。のちに、日本にもミステリーの概念が入って来ました。明治時代、はじめは翻訳された海外のミステリーが読まれていたそうですが、だんだん国産の推理小説が発表されるようになってきます。昭和に入ると、江戸川乱歩、松本清張らが活躍。ちなみに江戸川乱歩という名前は、先に出て来たエドガー・アラン・ポーをもじっています。また、時代は前後しますが、大正時代の純文学の小説家・芥川龍之介も『藪の中』という真相に迫る作品を発表しています。数々の小さなヒントから真相に迫っていくストーリー展開で、目が離せなくなります。「真相は藪の中」という言葉がありますが、この小説が語源となっているそうです。ちなみに10月7日はエドガー・アラン・ポーがこの世を去った日で、「ミステリー記念日」でもあります。ミステリー小説はいろいろと伏線があって難しいから…と苦手意識のある方は、ミステリードラマなどをちょっとのぞいて、謎が解けた時のスッキリ感を味わうのもよいでしょう。せっかくの過ごしやすい季節ですから、気持ちもスッキリするようなエンターテインメントを楽しめたらいいですね。では、今月もどうぞ元気にお過ごしください！

ふれディア通信編集部



幸福の前ふれ？不幸の予兆？

ラッキージンクス & アンラッキージンクス

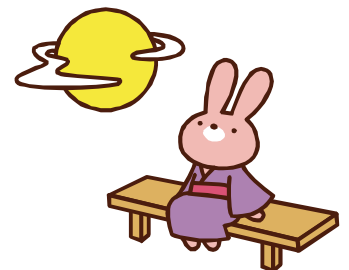


今月のジンクス

「夜空にまつわるジンクス」



空気が澄んでくる秋から冬は夜空が美しい季節です。例えば「流れ星に願い事を3回唱えると叶う」というジンクスはご存知の方も多いと思いますが、そんな夜空にまつわるジンクスはほかにもあるようです。例えば「雷が落ちる瞬間を見ると、幸運が舞い降りる」というもの。夜に稲妻がピカリ！と光ると怖くて仕方ないという方もいらっしゃるかもしれませんが、実はラッキーな出来事ともいわれています。また、月の周りに光の環が現れる「月暈」も、神様が見守ってくれているサインだそうです。月暈は氷の結晶でできた雲が月の光を反射したり屈折したりして起きる現象で、満月の前後2~3日の間に発生する確率が高いそうですよ。ちなみに満月といえば、「満月・新月の夜は陣痛が起きやすい」という、妊婦さんの間では有名なジンクスもあつたりします。秋の夜長に夜空を眺めていたら、ここで挙げたようなジンクスに遭遇するかもしれませんね。



日本や世界には、さまざまなジンクス・迷信・言い伝えがあります。ただし、ジンクスはあくまでもジンクス！アンラッキーなジンクスが起きても科学的な根拠はありませんので、ご安心くださいね。